

保育者養成校における 「英語コミュニケーション I・II」の授業の一考察 - 保育現場による英語活動を通して -

五十嵐淳子

帝京短期大学

Consideration of a lesson of "English communication I・II"
in a child-care worker training school:
Through the English activity by a nursery school

Junko Igarashi

要 旨

本研究では、実際の保育現場における英語活動ではどのような取り組みが行われているのかを観察した上で、保育者自身が英語活動を行えるようになることを目標に置いた「英語コミュニケーション I・II」の授業を考察した。保育者として英語活動を実践できるようになるためにはどのような学びが必要なのかを常に考え、保育現場での英語活動内容や子どもの反応などを参考にし、より将来の仕事と結びつくような英語の授業となるように配慮した。その結果、学生自身が英語は楽しいと感じることができ、英語に対してのイメージに変容が見られた。今回の実践を通して、子どもと一緒に英語活動を楽しむには、学生に英語の楽しさを伝えることの重要性が明らかになった。

Abstract

In this research, the English activity in the actual childcare spot, after observing what initiatives are already taken, the lesson of the "English communication I・II" placed for the purpose of the ability of the child-care worker itself to perform English activity now I have considered. It always considered whether what kind of it would be learned in order to be able to practice English activity as a child-care worker, and referred to the contents of activity to the child in the childcare spot, a child's reaction, etc., and it considered so that it might become the lesson of English which is connected with future work. As a result, it could think that the student of English itself was pleasant, and the change was looked at by the image to English. In order to have enjoyed English activity together with the child through this practice, the importance of telling a student English pleasure became clear.

1. はじめに

保育者養成校では、「英語コミュニケーション I・II」の教科が必修科目となっているが、多くの学生が英語を苦手科目として捉えている。しかし、保育現場では英語活動を取り入れる園が増加しており、実際に英語活動を導入している幼稚園の割合を調査した結果、首都圏の私立幼稚園では、約10%の幼稚園が英語活動に取り組んでいることが明らかになった¹。すでに小学校では2011年度から小学校5・6年生で週1回、年間35時間の外国語活動が必修化されている。現行の小学校での外国語活動は、学級担任が主に

指導を行い、歌やゲーム等を通じて英語に親しむ活動が行われている。2020年度からは小学校5・6年生において英語が正式科目となることが発表されている。そのため、幼稚園や保育園においても、今後はさらに英語活動を行う園が増加することが予想される。

保育者養成校では、今後の流れとして保育者が英語活動を実践していくことを見据え、英語関連の資格や小学校英語指導者資格などが取得できるところもある。実際の保育現場では、英語活動として歌や絵本の読み聞かせ、ゲームなどが取り入れられており、英語に触れながら活動を展開している。

筆者の担当科目である「英語コミュニケーション

I・II」では、英語関連の資格取得の有無にかかわらず、社会のニーズに伴った英語活動を学生が保育者になった時に自ら行うことを念頭に授業を組み立てていく必要があると感じた。それには、保育現場でどのような英語活動が取り入れられているのかの実際を把握し、「英語コミュニケーションI・II」の授業に反映させていくことが重要であると考えた。

そこで、本研究では、実際の保育現場における英語活動ではどのような取り組みが行われているのかを観察した上で、保育者自身が英語活動を行えるようになることを目標に置いた「英語コミュニケーションI・II」の授業を考察する。

2. 研究内容与方法

保育園での英語活動を観察し、筆者の担当科目である「英語コミュニケーション」の授業の中に実際に保育園で行われている英語活動を取り入れ、実践を考察した。さらに、保育専攻学生に対して、アンケート調査を実施し、その結果を集約し分析及び考察を行った。調査によって得た解答は複数解答で自由記述のため、整理は下記に記述している3項目を小項目にする方法をとった。

2-1 観 察

- (1)観察時期：2013年4月～10月
- (2)観察場所：首都圏私立N保育園
- (3)観察場面：英語活動
- (4)活動時間：週1回30分
- (5)対 象 児：5歳児（1クラス男児7名、女児9名、計16名）
- (6)指導形態：保育士との英語教師（外部講師）とのティームティーチング

2-2 実 践

- (1)授業時期：2013年4月～10月
- (2)授業科目：英語コミュニケーションI・II
- (3)授業概要：英語の歌やチャンツを取り入れ、幼稚園や保育園で保育者が英語活動を実践できることを視点に置いた授業を行った。また、英語に興味や関心がない学生が多いので、なるべく興味を持てる教材を使いながら学習する。
- (4)対象学生：2年生課程の保育専攻学生2年生計51名

2-3 アンケート調査

アンケートは以下の3項目の設問に対して質問紙法

を用いて実施した。

(1)設問内容

- ①チャンツや歌の中で印象に残ったものをあげ、その理由を書いて下さい。
- ②「英語コミュニケーションI・II」の授業で学んだことを保育者になったら活かしていくことができますか。
- ③保育者になった際に「英語コミュニケーションI・II」の授業で学んだことを活かしていけると答えた人はどうして活かせると思ったのですか。また、学んだことを活かせないと思った人はどうして活かせないと思ったのですか。

(2)調査時期：2013年10月25日

(3)調査対象：保育専攻学生計51名

(4)有効回収率：調査対象数51名のうち43名回収（回収率84%）

なお、本研究は学生に対するアンケート調査を考察したものであり、学生に対して本研究に基づく趣旨説明を行った。さらに、本研究に必要な情報開示、資料提示について、学生の協力の同意を得ている。

3. 「英語コミュニケーションI・II」の授業における英語活動の実践

小学校学習指導要領においては、外国語活動の目標として「外国語を通じて、言語や文化について、体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。」²ということを掲げている²。

保育園での英語活動においても、子ども自らがコミュニケーションを図ろうとする気持ちを大切にしながら、異文化理解に視点を置いた英語活動を展開していた。以下は保育現場の英語活動を参考にし、実際の「英語コミュニケーションI・II」の授業で取り入れた内容である。

3-1 チャンツ

授業の導入としてチャンツを取り入れることにした。チャンツを通して、英語特有のリズムを自然に身に付けることができる。チャンツを行う時は、学生全員を立って歌うようにした。繰り返し歌うことで体に刷り込み、口ずさむことができる。

以下は、授業で使用したテキストとチャンツの曲である。

- ・高橋一幸『NHK CD BOOK 新基礎英語1チャンツでノリノリ英語楽習!』NHK出版2011年
- ・アルファベット・チャンツ①

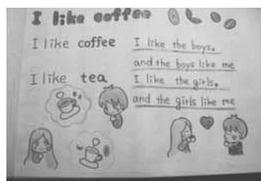
- ・ アルファベット・チャンツ②
- ・ はじめましてチャンツ
- ・ What time チャンツ
- ・ 曜日チャンツ
- ・ 七夕チャンツ
- ・ なかよしチャンツ
- ・ 親友チャンツ
- ・ みんな友達・地球人チャンツ
- ・ いつでもハッピーチャンツ
- ・ ウェディングチャンツ

3-2 歌

マザーグースやチャンツから曲を選択し、毎回の授業で1曲は覚えられるように練習を行った。保育者になった際に子ども達に英語の歌を教えられるようになってほしいという思いから、歌を覚えた後は、歌詞カードを作成するようにした。



【写真1 Song book】



【写真2 歌詞カード】

以下は、授業で使用したテキストと歌である。

松香洋子『I like coffee I like tea』松香フォニックス研究所 2005年

- ・ I like coffee
- ・ Rain, rain, go away
- ・ See you later, alligator
- ・ Ring-ring-arose
- ・ The eency weency spider
- ・ Humpty Dumpty
- ・ Ice cream
- ・ Candy candy
- ・ Vegetable goop
- ・ One for Johnny
- ・ Teddy bear, teddy bear

3-3 Name card

保育園では、英語活動の始まり時に、子ども一人ひとりの名前を呼び、「name card」を首に掛け全員とアイコンタクトを取り、笑顔で握手を交わしていた。

「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」の授業では、「name card」を作成し、出席確認の際に取り入れるようにした。名前を呼ばれた学生は、自分の「name card」を持っていき、机の上に置いて席に着席するよう

にし、出席の取り方を工夫した。

3-4 公開授業

筆者は「英語コミュニケーションⅡ」を公開授業とし、複数の教員から意見をもらう機会を得た。授業では、導入は歌やチャンツを行い、洋楽“call me baby”(Carly Rae Jepsen) のリスニングを行った。洋楽のリスニングを取り入れたのは、子ども向けの英語の歌だけでなく、流行の曲を取り入れることで、より英語に親しみをもってもらいたいと考えたからだ。

次にハロウィンのフラッシュカードを使用し発音を練習し、主活動としてアクティビティゲームの「じゃんけんゲーム」を行った。ゲームを利用した英語活動は、学習行程が楽しく、繰り返しの部分が大量に含まれている活動である³。また、英語への抵抗感が少なくなり、クラスの中が楽しい雰囲気になることがゲームの効果としてあげられている⁴。保育園でもアクティビティにはゲームが取り入れられていたが、授業ではその中の一つである「じゃんけんゲーム」を取り入れた。小川はゲームの目的を最大限に生かすために、以下の6点を提示している。

【表1 ゲームの目的を最大限に生かすためには】

- ①ゲームの中で使用する英語表現は必ず練習しておく。
- ②全員にやり方を理解させる。やり方を理解しないままスタートすると混乱する。
- ③グループの作り方、終わったときどうするかを伝えておく。
- ④教室内で行うため危険なことが起こらないように、人を押したり、たたいたり、走り回らないように注意を促しておく。
- ⑤競争心ばかりをあおるようなことはしない。後味が悪くなり次の時間にも影響することがある。
- ⑥もっとやりたいと思っているところで切り上げる。飽きてしまう子が出ないうちに切り上げるのがよい。

小川隆夫「先生、英語やろうよ!」株式会社 mpi 2011年より抜粋

授業では、学生が実際に保育者として「じゃんけんゲーム」を子どもと一緒に楽しめるように上記の点に考慮して指導した。さらに、「じゃんけんゲーム」の英語活動を学生自らが楽しいと感じるようにゲーム活動の際はBGMとしてリスニングとして学習した英語の曲“call me baby”(Carly Rae Jepsen)を流し、できるだけ楽しい雰囲気を醸し出すように工夫した。この曲はテンポがよく、若い世代に人気のある曲である。そのため、学生にも親しみがある曲として盛り上がるのではないかと思い選曲した。

また、子どもだけでなく学生でも活動を楽しめるように、団扇を使って「じゃんけん」を行うように工夫した。団扇は1チームにつき3枚用意し、2チームで合計6枚使用する。1枚ずつ両面に rock, scissors, paper のそれぞれの絵を描き、団扇で「じゃんけん」ができるようにした。



【写真3 団扇（じゃんけんゲーム）】

最初に、座ったまま手を挙げて、グー、チョキ、パーを作りながら、“rock, scissors, paper” の発音練習を3回ずつ行った。その後に学生を2チームに分けて、向かい合わせに並び、各チーム一人ずつでてきて、じゃんけんで対決した。

【表2 英語活動（じゃんけんゲーム）での教師と学生のやりとり】

T: “Are you ready?”
C: “Yeah!”
T: “One, two!”
C: “Rock! Scissors! Paper! Go”

あいこの時は、“Try again.” と言いながら、対決が続いていった。勝っても負けても、それぞれのチームから歓声が上がった。じゃんけんに勝った学生は、1ポイントがもらえる。どちらにポイントが入ったかわかるように、勝った学生にはメダルを渡す。メダルはペットボトルの蓋に金色の折り紙をかぶせ、手作りのメダルを製作した。負けた学生に対しては“You lose.” と言いながら握手をする。

最後に、各チームでメダルの個数を確認するために英語で数を数えた。各チームが何ポイント入ったのかを数える時は、卵が売られている時に入っているプラスチックの空箱を使用し、それに入れながら数を数えるようにした。卵の空箱は手作りのメダルがぴったりとはまる大きさで、全部で10個のメダルが入るようになっている。そのため、子どもが使用した際も、数が数えやすいという利点がある。勝ったチームの学生からは歓声が上がったが、負けたチームからすぐに「もう一回」という声が上がった。



【写真4 「じゃんけんゲーム」の様子】

ゲーム終了後は、ハロウィーンの行事に合わせ、ハロウィーンの由来を説明した後に、折り紙でかぼちゃの“jack-o-lantern”を作成し、ハロウィーンの雰囲気を出すための飾りつけの製作を行った。まとめに関しては、ワークシートを使用しハロウィーンのワードサーチを行った。



【写真5 製作の様子】



【写真6 “jack-o-lantern” の作品】

公開授業を見学した教員の意見として以下のことがあげられた。

- 英語の楽曲から歌詞を聞き取るなど、楽しみながら英語に触れ親しむように工夫されていた。
- ハロウィンに向けて、教材を作成したり、英語表記のカレンダーを作成したりするなど、実際に保育現場に取り入れられる活動を授業で行っていた。
- 対話式の授業が行われており、学生とのコミュニケーションが図れていた。
- 授業のほとんどが英語で進められていた。
- 実際に保育現場で取り入れられている活動を授業で取り入れるなど、実践につながる授業内容であったと感じる。
- 学生が活発に授業に参加されている印象を受けた。
- 楽しい英語に触れることができ、とても新鮮で楽しい授業でした。
- 学生が参加できる授業の進め方が大変参考になった。

た。

- ・授業内容がわかりやすい資料を用意されていてとても参考になった。
- ・多くの学生が積極的に授業に参加していたが、一部の学生において、私語が目立った場面があった。

実際に、教員に授業を観察してもらい意見をもらえることは大変貴重な機会であり、今後の授業改善に繋がっていくことができる。学生が積極的に授業に参加していたという意見や楽しい英語に触れることができているという意見からは、授業のねらいが達成されていたことが認識できた。しかし、アクティビティゲームに関しては学生が積極的に参加し、楽しさを感じて盛り上がる反面、ゲーム中に私語をしてしまう傾向があるので、学生全員でゲームに集中できるやり方を工夫していく必要がある。また、ゲーム活動が終了した学

生からワークシートの作業に移れるように次の活動を準備し、学生自身が円滑に次の活動に取り組めるように改善する必要性が明らかになった。

4. アンケート結果及び考察

「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」の授業では、学生が保育者となった際に、実際に英語活動が実践できることをねらいとして、授業を行ってきた。そこで、今までの授業の学びを振り返り、授業改善につなげるためにアンケートを実施した。

4-1 チャンツ・歌

印象に残ったチャンツ・歌とその理由についての結果は以下のとおりである。

【表3 印象に残ったチャンツや歌】(原文のまま抜粋)

チャンツ	人数	理由
はじめましてチャンツ	7人	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムが良くて面白かったから ・一番最初にやったのですぐ耳に残った ・曲のメロディが好きだから ・実習で使ったとき、反応が良かったから ・覚えやすくて口ずさむことがあったから
曜日チャンツ	7人	<ul style="list-style-type: none"> ・耳に残ったから ・楽しいし、とても印象に残る曲だから ・リズムがすごく分かりやすいから ・覚えやすいしノリノリになれるから ・曜日がとても覚えやすく、歌の歌詞の中に出てくるから ・歌の中間のリズムが面白いから
This little piggy	6人	<ul style="list-style-type: none"> ・テストで覚えたから ・振り付けがあったので楽しかったから ・元気になるから ・手遊びをしたから ・歌の手遊びを初めて覚えることができたから
The eency weency spider	6人	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムと手遊びが覚えやすかったし好きだったから ・手遊びがかわいかったから ・リズムも良かったから ・手遊びを覚えるのはとても大変でしたが楽しかったから ・振り付けを含めて頭に残ったから
I like coffee	5人	<ul style="list-style-type: none"> ・最初の頃でとてもよく覚えているから ・耳に残りやすかったから ・楽しくて印象が残っているから ・紅茶が好きだから
七夕チャンツ	4人	<ul style="list-style-type: none"> ・印象に残ってるから ・リズムもゆっくりで歌いやすく、歌詞も素敵だったから ・メロディーがきれいだから
いつでもハッピーチャンツ	2人	<ul style="list-style-type: none"> ・静かな曲でなんか頭に残る感じだから ・リズムが好きだから
ウェディングチャンツ	2人	<ul style="list-style-type: none"> ・内容が素敵だから ・授業でたくさん歌って自然と覚えていて、気がついたら口ずさんでいることが多かったから
Teddy bear, teddy bear	2人	<ul style="list-style-type: none"> ・何度も繰り返す歌詞で覚えやすかったから ・聴いているととても眠くなるから
See you later, alligator	2人	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムがすごく残っているから
Humpty Dumpty	2人	<ul style="list-style-type: none"> ・ストーリーが分かりやすく落ちついたメロディで歌いやすかったから ・楽しい気分になるから
仲良しチャンツ	1人	<ul style="list-style-type: none"> ・ノリノリチャンツの名前のとおり、ノリノリで楽しいから。

中山は「英語のリズム（プロソディ）の習得に最もよい方法はチャンツやマザーグースのような童謡を歌うのが、簡単で効果的である。」と述べている⁵。チャンツの指導の効果として中山は「チャンツ指導の主な目的は聞いて理解する力と話して理解してもらう力を伸ばすことである。日本語の話し言葉は平坦であるため、英語で話すときにも平坦な表現となる傾向が大である。そこで聞こえる英語、通じる英語のスキルを習得するためにストレス、イントネーション、リズムなどの定着訓練が重要であり手段としてチャンツを利用する。」と言及している⁶。歌やチャンツは子どもにとって効果的活動の一つであり、授業の導入として必ず歌やチャンツを取り入れることを行った。学生にチャンツを指導する際は、日本語と英語のリズムやイントネーションの違いを説明し、机を叩きながら、英語と日本語のリズムの違いを体感することをを行った。

アンケート結果では、「はじめましてチャンツ」と「曜日チャンツ」が印象に残ったと回答している学生が多いという結果となったが、覚えやすく、ノリが良いという点がこの2つのチャンツには共通している。

次に多かった“*This little piggy*”と“*The eency weency spider*”の歌は、代表的な曲である。これらの曲は歌だけでなく手遊びがあり、何回も繰り返し手遊びと歌の練習を行うことができる。そこで、授業の中で、一人ずつ歌いながら手遊びを行うというテストを行った。テストを受けることを通して、反復練習を行ったため自信を持ち印象に残っていることが読み取れる。

チャンツや歌はノリが良い曲を取り入れた一方で、メロディがきれいで、ゆっくりした曲も取り入れるようにした。「七夕チャンツ」や「いつでもハッピーチャンツ」、「*Teddy bear, teddy bear*」や“*Humpty Dumpty*”は気持ちが落ち着く曲である。子ども達がノリの良いチャンツやゲームなどで盛り上がって興奮した後に、これらの曲を歌うと、気持ちを落ち着かせるうえで効果的なものであると考える。そのため、授業では元気な曲と落ち着く曲の両方を取り入れた。

4-2「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」における授業の学び

「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」で学んだことを保育者になったら活かしていくことができるかという質問に関して、「はい」と回答した学生は33人であった。授業で学んだことを活かせると回答した理由は以下のとおりである。

授業で学んだことを活かせると回答した理由としては、歌と英語の楽しさをあげている学生がそれぞれ8

人で一番多い結果となった。次に多かった回答はゲームについてであった。上記のアンケート結果から、歌や手遊び、ゲームを通して、授業で英語の楽しさを知り、学生自身が楽しめたことで子どもと一緒に楽しみたいという思いがでてきたことがわかった。

学生の中には、幼稚園実習で実際に英語活動の実践を行った学生がいた。その学生にどのような英語活動をしたのか尋ねたところ活動内容について『実習では、10分間という短い時間だったが、英語活動に挑戦した。最初に“*nice to meet you*”の意味を子ども達に聞くと「はじめましてだよ」と答えた子どももいて、意味を確認してから、チャンツを歌いながら子ども同士で握手をするという活動を行った。子ども達はリズムに乗りながら握手をし合い、楽しく活動することができたみたいで、「もう一度やりたい」という要望がでたので、もう一回繰り返しチャンツを歌った。とても良い経験だったので、保育実習でも取り組んでみたい。』と答えてくれた。

幼稚園実習で英語活動を取り入れた学生は、授業の初めは英語を全く楽しめていない様子であった。英語のインタビューテストを行った際も、英語で質問しても拒否反応を示しており答えようとしなかった。また、インタビューテストに再度挑戦するように促すと反抗的な態度をとり、授業においても前向きな態度は見られなかった。そのため、英語活動を実習で取り入れるということは想像すらできない学生であった。しかし、授業を進めていくうちに英語の楽しさを知り、子ども達の前で自ら実践できるようになり、学生の英語に対する気持ちの変容が見られた。

逆に「いいえ」と回答した学生は2人であり、学んだことを活かせないという理由には「勇気がない」、「実際に子どもの前で体験したことがないから」ということがあげられた。「どちらでもない」と回答した学生は8人であり、理由としては、「どちらでもない」の理由として、8人中6人が「英語が好きだが苦手なので自信がない」ことをあげている。その他は、「英語が科目として小学校で導入されるのが2020年からののでまだ考えることはないと思う」、「英語より日本語をやりたい」という意見もあがった。

このことから、実際の子どもの前で英語活動に取り組むことに、不安を抱えていることが浮き彫りになった。そのため、授業では教員が学生に英語活動のやり方を説明するだけでなく、実際に模擬保育やロールプレイングに取り組み、英語活動の実際を学生に行わせることが有効であり、学生に自信を持たせることに繋がると感じた。したがって、今後は授業で英語活動の模擬保育を展開できるように授業を改善していきたい。

【表4 「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」で学んだことを活かせる理由】

学び	人数	理由
歌	8人	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達は歌を歌うことが大好きだから ・手遊びの歌は役に立つと思う ・歌はリズムで覚えやすいと思うので取り入れたら子どもも喜ぶと思ったから ・英語のCDを使って歌を歌ったり、体を動かしたりして「頭、肩、ひざ、ぼん」の英語の歌もやってみよう ・手遊び等を覚えたから ・子どもにも親しみやすそうな歌が多かったので一緒に楽しめそうだったから ・英語の手遊びをしたから ・歌をたくさん学べたので子どもと一緒に楽しめると思ったから
楽しさ	8人	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しんで取り組むことができそうだから ・簡単なものならできそうだし楽しいと思ったから ・自分が楽しめたから子どもも楽しめると思ったから ・英語に少しでも触れることで英語を学ぶ楽しさを感じてほしいから ・私自身が楽しんで行うことが出来ると思うので、子ども達にも楽しんで英語に触れてもらいたいから ・最初は英語なんて・・・と思っていましたが、実際にはこんな遊びがあったら楽しいだろうと思ったからです。 ・歌を歌ったり、映画を見たり、製作したりしたことが面白かったから ・英語の授業を楽しめたから
ゲーム	5人	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームなどは子どもが大好きだから ・ゲームが使えると思ったから ・ゲームなどは子どもが好きで、私自身楽しみながら授業で学べたので、それらを子どもに伝えて保育ができると思ったから ・子どもでもわかりやすそうなゲームが出来そうと思ったから ・子どもが好きそうなじゃんけんゲームなどを学べたから
英語教材	3人	<ul style="list-style-type: none"> ・きちんと教材がそろってれば、学んだことを活かして十分に活かせると思ったから ・簡単でもよいから教材を使いながら単語(果物や動物)の英語は教えられると思ったから ・ハロウィンのフラッシュカードを使ったものをやってみようと思いました。
その他	7人	<ul style="list-style-type: none"> ・今の時代、早い時期から英語に力を入れている学校が多いと思います。小学校ではこれから本格的に英語の授業を取り入れるそうですが、幼稚園や保育園から英語をやっても全く早くはないと感じるからです。 ・もしかしたら使うかもしれないから ・外国人の子どもとコミュニケーションがとれるから。 ・子ども達に身近に英語に触れてほしい ・頑張りたいと思ったから ・授業がわかりやすかったから ・自信がついたから

アンケート記入の際には、「英語コミュニケーション」の授業の感想も記載してもらった。以下は学生が記述した授業感想である。

幼児の英語活動に関して、落合は「決して無理強いないで、子どもが楽しく学べるように配慮し、『英語嫌い』にならないようにしながら本人の動機づけを確立していけるようにすることが必要であろう。」と言及している⁷。子どもが楽しく学べるようにするには、「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」の授業では、まず学生が楽しく学べるように配慮することが重要である。

また、秀は「実際の英語活動内容は、英語の習得というよりも英語との出会いや楽しさに対する経験という捉え方ができる内容ではないかと考える。」と言及している。そこで、楽しいと学生に感じてもらうこと

を一番のねらいとして授業に取り組んだ。

小川は「どんなに優秀なALTがいても、担任の取り組む姿勢が子どもたちの英語活動への意欲に大きく影響します。」と述べている⁸。保育現場では、英語活動をALTなどの外部講師が担当していても、担任である保育者の姿勢が子どもの英語活動に反映する。保育専攻学生は、英語に嫌悪感を抱いている人が多く、英語を苦手としている学生がほとんどである。そのためにも、学生が英語を好きになり、英語は楽しいという気持ちを芽生えさせることが大切であると思い、毎回の授業の根底に「楽しい」という視点を置いた実践を展開した。学生の感想には「楽しい」と記載してあるものが多くみられることから、今回の実践の学びが楽しさに繋がったことが明らかになった。

【表5 「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」の授業の感想】(感想は学生の原文のままである)

- ・歌とかはリズムで頭に入りやすいです。
 - ・私は昔から英語が嫌いでしたが、この英語の授業では歌等で学んだので楽しかったです。
 - ・ハロウィンの授業がとても楽しかったです。
 - ・もともと英語が好きだったけど、今までのように座って文法や単語を覚えるというのではなく、楽しく英語ができたのですごく良かったです。
 - ・チャンツは毎回やりたいくらい大好きです。
 - ・楽しく英語に触れることができ、1番好きな教科です。
 - ・手作りのものを作ったり英語の映画をみたりしてすごく楽しかったです。
 - ・折り紙や映画が楽しかったです。音楽をかけながら授業をやるとても楽しいと思いました。
 - ・インタビューテストは難しいところもありましたが、とても楽しい授業でした。
 - ・前期のテストの際に先生の質問にうまく答えられなかったときに自分は努力しなければ力不足だと感じましたが、授業は製作や歌を歌えて楽しかったです。
 - ・とても楽しかったです。
 - ・折り紙は少し難しかったです、いろいろなものが作れて良かったです。
 - ・すごく毎回楽しいです。
 - ・製作がすごく楽しいです。
 - ・折り紙や映画など楽しいことをしながら英語を覚えることができ良かったです。
 - ・大学でも英語を学ぶとは思いませんでした。改めて英語をすると楽しいです。
 - ・全体的にいろいろなことをやっているのを楽しんで学ぶことができます。チャンツや英語の映画で英語の発音や生の英語を聞くことができるのです。
 - ・英語を難しく考えていたけど、楽しく歌等を覚えられたと思いました。
 - ・先生のやり方も楽しくてとてもやる気ができます。英語が苦手だったけれど、授業をうけてからそんなこともなくなりました。
 - ・英語はそれほど好きではないけど、授業はとても面白いので好きです。
 - ・楽しく英語を学んでいると思う。
 - ・最初は出来なかったから嫌いだったけど、今では少しましになったと思います。
 - ・英語に興味のない子どもにどのように教えればよいか参考になった。
- 歌詞カードづくりが楽しかった。
- ・英語の歌や映画を見たのが楽しかった。
 - ・英語のリスニング能力は低いけど、歌を聴くのは好きなので、他のことも好きになれるように頑張りたい。
 - ・映画を見たり、製作したり楽しいです。
 - ・英語を使っの幼児教育を今まで知らなかったの意外と面白いと思いました。
 - ・とても耳に残るような歌を歌ったりと手遊びをやったり楽しいです。
 - ・歌等楽しく出来たので、これからも楽しくやっていきたいです。
 - ・今回の授業で行ったことを将来につなげていきたいと思っています。
 - ・毎回の授業内容が明るい感じで楽しく学べました。家でも洋楽を聴いて、日常で英語を身近にしようと思いました。
 - ・楽しい歌や英語、製作等英語に関するを楽しく学べて嬉しかった。
 - ・英語の手遊びは普段はやらないので楽しかった。
 - ・楽しくできたけど、もっと英語の手遊びを覚えたいと思った。
 - ・たくさんの英語の歌や表現を覚えることができ楽しかった。
 - ・音楽を聴いたり、いろいろなものを作ったり楽しかったし、すごく難しい英語ではなかったの分かりやすかったので楽しかったです。
 - ・これまでの英語と言う印象とは違って楽しかった。
 - ・今までの英語は文法が難しく楽しいと思えなかったけど、声を出して歌ったり話したりする授業だったのでとても楽しく覚えられました。
 - ・英語は苦手だけれど、簡単な単語を覚えるだけでもゲームができて、楽しめることができました。
 - ・毎週楽しいです。
 - ・頭に残るような歌もたくさん習い楽しかったです。
 - ・とても楽しい時間なので、英語の時間が楽しみです。

5. おわりに

今回の実践を通して、子どもと一緒に英語活動を楽しむには、学生に英語の楽しさを伝えることの重要性が明らかになった。保育専攻の学生の多くは、中学・高校の英語の授業を通して、文法や長文読解などが理解できないことから英語に苦手意識を持っており、英語に対しての嫌悪感を取り除くことをまず最優先で行わなければならなかった。

そのため、Reading や Writing などに触れることはせず、「楽しい英語」を念頭に授業を行った。また、幼児の英語活動だけでなく、洋楽のリスニングや映画を見る機会を通して、学生自身が英語の楽しさに触れることができるようにした。学生の多くが保育者を目指しているため、英語ではなく保育には興味を持っている。保育者として英語活動を実践できるようになるためにはどのような学びが必要なのかを常に考え、保育現場での子どもへの活動内容や子どもの反応などを参考にし、より将来の仕事と結びつくような英語の授業となるように配慮した。

その結果、学生自身が英語は楽しいと感じることができ、英語に対してのイメージに変容が見られた。授業では、歌やチャンツを中心にしながら、英語教材の製作やアクティビティゲーム、フラッシュカードなどを取り入れ、学生が積極的に参加できるような教授法を取り入れた。しかし、今回の実践では、クラスルームイングリッシュの習得、フォニックスの指導法や絵本の読み聞かせ、英語活動の指導計画の立案及び模擬保育までは実践することができなかった。また、アクティビティゲームの際に私語が見られ、学生全員がゲーム集中できる環境が保てなかったことは改善していく必要がある。

今後は、「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」における授業では、英語活動の指導計画の立案とともに、実際に学生が保育者役になって英語活動を体験できるような実践を行っていきたい。

引用文献

- 1) 五十嵐淳子「保育者養成校に求められる保育実践力の育成 - 英語学習の視点から -」愛国学園保育専門学校紀要第2号、2010年、23頁
- 2) 文部科学省『幼稚園教育要領』教育出版株式会社、1998年、97頁
- 3) 中山兼芳 [編]『児童英語教育を学ぶ人のために』世界思想社、2010年、217頁
- 4) 小川隆夫『先生、英語やろうよ!』株式会社 mpi、2011年、88頁
- 5) 中山千章・廣瀬久子「幼児英語を指導するにあ

たっての諸課題について」つくば国際短期大学紀要第39号、2012年、27頁

- 6) 中山兼芳 [編]『児童英語教育を学ぶ人のために』世界思想社、2010年、194頁
- 7) 落合俊文「早期英語教育に関する一考察 - 幼児期における第二言語 (外国語) 習得について -」洗足論業第41号、2012年、111頁
- 8) 前掲書4、18頁

参考文献

- 大石晴美『脳科学からの第二言語習得論 英語学習と教授法開発』昭和堂、2006年
- 落合俊文「早期英語教育に関する一考察 - 幼児期における第二言語 (外国語) 習得について -」洗足論業第41号、2012年
- 木村貴子「保育英語の効用～青森中央短期大学幼児保育学科の学生に対するアンケートから～」青森中央短期大学研究紀要第24号、2011年
- 門井幸子『これ英語でなんていうの?』講談社、2003年
- 門井幸子『英語で話そう楽しい一日』講談社、2002年
- 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館、2011年
- 佐藤朝代『「自然の教室」カリキュラム 年中編』ひとなる書房、2013年
- 清水益治・森敏昭『0～12歳児の発達と学び 保幼小の連携と接続に向けて』北大路書房、2013年
- 秀真一郎・木本有香他「幼児教育現場における英語活動の実態とその方向性」吉備国際大学研究紀要第23号、2013年
- 高橋一幸『NHK CD BOOK 新基礎英語1 チャンツでノリノリ英語楽習!』NHK出版、2011年
- トミー植松『レッツ・トライ・イングリッシュ! 英語で遊ぼう ゲームとコント』評論社、2011年
- 中本幹子『実践家からの児童英語教育法 解説編』アプリコット、2003年
- 中村敦孔『赤ちゃんからの英語レッスン 絵本で育てるバイリンガル』リヨン社、2003年
- 中森誉之『外国語はどこに記憶されるのか 学びのための言語学応用論』開拓社、2013年
- 中山千章・廣瀬久子「幼児教育としての英語をめぐる環境とその指導のあり方について - 附属幼稚園の英語カリキュラムをとおして -」つくば国際短期大学紀要第38号、2010年
- 西尾由里『児童の英語音声知覚メカニズム L2学習過程において』ひつじ書房、2011年
- 原明子・伊藤英「就学後の継続・発展につながる就学

前英語教育の進め方 -Graded Reading の導入と効果
-」 岐阜大学カリキュラム開発研究第28号 2010年
マスミオーマンディ『英語は世界のパスポート』どり
む社、2007年
松香洋子『I like coffee I like tea』松香フォニックス
研究所、2005年
文部科学省『小学校英語活動実践の手引き』開隆堂出
版、2007年
松崎博『ゲームでおぼえる初めての英語 会話ゲー
ム』ポプラ社、2002年
和田陽子「幼児期からの英語教育に関する研究」保育
研究第37号、2009年
ARCLE 編集委員会『幼児から成人まで一貫した英語
教育のための枠組み』リーベル出版、2005年